努力事項解説　その2　（小学校特別活動）

活動内容（1）「学級や学校の生活づくり」の内容を十分に展開するために課題とされていることについて、どのようにしていけばいいか考えてみます。

十分に展開するために、次の課題を解決していきましょう!

9 学級活動（1）に充てる時間が（2）より多いですか?

これは

活動内容（1）「学級や学校の生活づくり」が大変重要な内容であることを踏まえて、確実に実施していきましょう。

という意味です。

小学校学習指導要領や同解説特別活動編に、活動内容（1）を活動内容（2）よりも多く実施しなければならないという記載はありませんが、下記の記載があります。

自発的、自治的な活動は、特別活動固有の特質であり、なかでも学級活動の「(1) 学級や学校の生活づくり」は、特別活動の中心的な活動である。このことを理解するとともに、特に学級会の指導が充実するように努める必要がある。

（小学校学習指導要領解説特別活動編P. 113）

それぞれの特質を生かし、かつ、学級活動全体の調和を図りながら、年間指導計画を作成し実施することになるが、「(1) 学級や学校の生活づくり」を重視するためには、「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の内容について関連、統合を図るなど指導内容を精選し、全体として学級活動の指導の重点化を図ることが必要になる。

（小学校学習指導要領解説特別活動編　P.114）

まとめると、

① 活動内容（１）「学級や学校の生活づくり」は、特別活動の中心的な内容である。

② 学級会の指導の充実に努める必要がある。

③ 活動内容（２）「日常の生活や学習への適応及び健康安全」については、関連、統合を図り指導内容を精選する。ただ、これは、活動内容（２）をおろそかにしていいということではありません。活動内容（２）の目的を達成しつつ、活動内容（１）の時間を確保するということです。

活動内容（1）と活動内容（2）のそれぞれの時数については、小学校学習指導要領の趣旨やそれぞれの学校の児童の実態等を踏まえ、各学校が決めることですから、必ず活動内容（1）が活動内容（2）より多くならなければならないということはありません。

しかし、上記のとおり、活動内容（1）は、とても重要な内容とされています。それを踏まえ、活動内容（1）を確実に実施して、児童一人一人に自主性や社会性、集団の一員としての責任感を育てるとともに、望ましい人間関係を築こうとする態度を身に付けさせていかなければなりません。

そのためには、活動内容（2）を目的を達成しつつ精選し、活動内容（1）に充てる時数をできるだけ多く確保していくようにすることが大切です。

　次回は、「10　学級活動の時間を時間割の月曜1校時や金曜5校時においていませんか?」について考えていきます。
　8月16日（金）頃アップの予定です。